

文化財を大切にしよう



消火訓練 (平成元年1月26日 春日町 愛染院境内)

昭和24年(1949)1月26日に、奈良の法隆寺金堂壁画が火災により失われたことをきっかけとして、毎年この日に全国

1/26は文化財防火デー

文化財防火デーの行事がおこなわれています。

平成元年9月4日午前3時頃、都指定有形文化財(彫刻)「木造天海僧正座像」(輪王寺開山堂、台東区上野公園14-5)が、火災で焼損するという事件がありました。江戸時代初期から300年もの間保存されてきた文化財が、一夜にして灰になっ

てしまいました。区内には、寺院や神社をはじめ、多くの木造の文化財があります。これらのものを火災などの不慮の事故から守り、後の世に伝えることは、現代を生きる私達の責務です。

1月26日には、練馬区内の練馬・石神井・光が丘の各消防署が、区内の社寺で消火訓練をおこないます。教育委員会で

ねりまの文化財

練馬区教育委員会
社会教育課
(文化財保護係)
☎ 993-1111 内線 2766
〒176 練馬区豊玉北6-12-1

は、各会場で記念品を差上げます。

〈会場〉

- 南蔵院 (中村1-15-1)
- 諏訪神社 (西大泉3-13-3)
- 長命寺 (高野台3-10-3)

〈時間〉

午前10時～10時30分(予定)



秋の史跡散歩(お囃子の実演)

秋の史跡散歩を、11月12日(日)光が丘・旭町コースでおこないます。

全参加者151名。2班に分かれて見学。

今回の史跡散歩の特徴は、通常の講師桑島・松本両氏の他に、地元の歴史に詳しい加藤佐平氏、八丁堀三吉囃子保存会の小島忠次郎氏(実演)、〈次頁へ〉

平成元年度文化財愛護全国研究集会が去る11月7～8日、上野の国立博物館で開催されました。練馬区からは、感想文をいただいた両加藤氏のほか、計7名の文化財保護推進員が参加しました。

事例発表を聞いて

青森県田舎館村垂柳遺跡

発表者の岩間氏とは開会前に対話したので、特に関心深く聞いた。東北訛で朴訥、親しみさえ感じた。

垂柳遺跡は、昭和31年(1956)の耕地整理の際、水田の中から土器や焼き米が発見され、住民の関心が深まっていた。国道102号線のバイパス工事の着手前、昭和56年から58年にかけての発掘調査の結果、現在の田面の下50cmに656枚の水田跡・土器・弥生人の足跡が発見された。発掘には村ぐるみの様に多数の人が参加した。寒冷な当地に二千年も前に稲作が行われていたということで、学界で評判になった。

地域の小学校六年生が、昭和61年から弥生時代の服装で(指導者も同様)稲作作業を体験しているという。

衣・食・住は人間生活の三要素。昭和6年の冷害による東北地方の大飢饉を知

っているし、稲作は寒冷地に適さないと教えられてきた。今では種子の改良と栽培技術等の進歩により、北海道でも作付けされているが、二千年も前の人々が、生きるためとはいえ稲作に取組んだことを知り、苦勞の程が偲ばれた。

発掘調査、小学校6年生の体験学習など、村ぐるみ、地域ぐるみの様であったことを発表前の対話でも知り、人口1万人足らずの過疎の村だから可能のこと。当区の様には61万人までに都市化した地区とは、連帯意識に較差があると感じました。

文化財保護推進員 加藤 喜平

文化財愛護全国研究集会

に参加して

内心、出席率では練馬区が日本一かな、と思つたあの上野国立博物館における全国集会で、代表的な研究発表を伺つて感心しました。遺跡、景勝地、民俗資料、美術、芸能等の伝承、普及、保護活動の事です。

然し私は感服する半面、その様な特殊な所に限らず、普通の町村でどの様な事を行っているのか、そんな話も伺いたいと思いました。

文化財保護推進員 加藤 喜平



秋の史跡散歩 本覚寺(旭町1-26-5)

(1頁から)
お会式の準備でお忙しい中でお寺の来歴をお話しいただいた本覚寺のご住職、花岡学園や兎月園のお話をしてくださった花岡医院院長など、いまままでに増して内容豊富な史跡散歩となったことです。また、テキストには講師の松本氏が作成された「光が丘」いまむかしを掲載し、加藤氏の話と合わせて、光が丘の歴史を知る良い資料となりました。

(協力 花とみどりの相談所)

平成元年度 第2回文化財講座

「瓦からのメッセージ」



① ⅞(水) 区立婦人会館で講義

○瓦について——学芸員 小金井 靖

○練馬の蔵—郷土史研究家 井口 敏

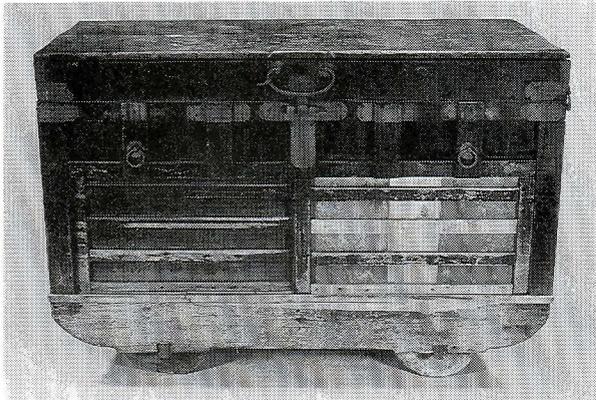
参加46名(応募73名から抽選)

② ⅞(木) 川越市蔵造り資料館ほか。

○市内に残る土蔵約20件を3班で見学

③ ⅞(金) 区立婦人会館で質疑応答

郷土資料室収蔵品シリーズ



くまながもち
車長持 (長さ152.5cm)

衣類、夜具、調度などを入れるのに用いた長持は、棹さきを通して二人でかつぎました。火事るとき持運びが不便なことから、江戸時代になって車をつけた長持が作られました。要所要所をがんじょうに作り、太い木を使い鉄具で保護しています。これが見事な意匠となつて、この長持に威厳を加えています。

たびたび大火のあつた江戸では、車長持の数が増加して、消火や避難活動に大きな支障となり、明暦大火後の天和三年(1683)幕府は、その使用を禁止しました。(練馬は郊外のため、禁令に該当しなかつたようです)

「何も知らないで見ると、教えていただいて予備知識をもつてのものとは、興味が違います……」等、いろいろな感想をいただきました。

いままで何となく見ていた文化財の美しさを知り、それが文化財保護につながつていくことと思います。(次頁に記事有)

川越市蔵造り資料館にて



案内役の伊藤経一氏(中央)の説明を受ける参加者

東京都文化財講座に参加して

11月28日、東京都教育委員会主催の「江戸から東京へ」というテーマの講演を聞く機会を得た。講師は、東京教育大学名誉教授の西山松之助氏である。

講演内容を要約すると、徳川幕府が滅亡し大政が奉還され、封建時代から資本主義時代へと移り変わり、政治、経済、文化とあらゆる面で欧米の文化をとり入れた近代国家として形成されてゆく、日本の黎明を迎えるに至つた、歴史事象の過程を、分かりやすく解説され、江戸時代末期の幕府の崩壊に関心のある研究者にとっては、大変参考になる講演であつたと思う。

練馬区地名研究会委員 林 勇

●文化財保護・研究団体紹介●

練馬区地名研究会

地名は土地に記された文化遺産だといわれます。その地名が開発の波に押されてどんどん消えています。練馬区も例外ではありません。今のうちに昔の地名を調査・記録しておかないと取り返しのつかないことになる、結成されたのがこの会です(代表委員林英夫立教大学名誉教授)。発足3年目の若い会ですが、会員100名、定期的な例会、会報・資料集の刊行など熱心な活動をつけています。

〈講演会〉

『小田原衆所領役帳』と地名 紙に見える

文化財日誌

(平成元年10月1日〜12月31日)

〈10月〉

1日 わがまち再発見

クイズウォークラリー 石神井公園

8日 ふるさと練馬まつり 豊島園

23日 文化財保護審議会(第1部会)

石神井城址調査会 資料収集部会

26日 文化財保護審議会(第2部会)

〈11月〉

12日 史跡散歩 光が丘・旭町コース

○日時 2月4日(日)午後1時30分

○場所 練馬区立婦人会館

○講師 西ヶ谷 恭弘氏

(日本城郭資料館長・立正大学講師)

○聴講無料 ○問合せ 96-3295林

新

ねりまの文化財と散歩道と名付けたもので、歴史・遺跡・水系・道路・地名などの解説、代表的文化財の案内、史跡散歩コースなどがのつています。またいま流行のバイリンガル(二か国語)で、英文の概説が付いています。区役所・情報公開室・郷土資料室で配布。(無料)

20日 住宅調査(向山三丁目)

17日 埋蔵文化財試掘(富士見台四丁目)

20日 埋蔵文化財立会(豊玉北二丁目)

30日 文化財保護審議会(全体会)

〈12月〉

6日〜8日 文化財講座

8日 古文書燻蒸(小島家文書等)

11日 埋蔵文化財立会(大泉町五丁目)

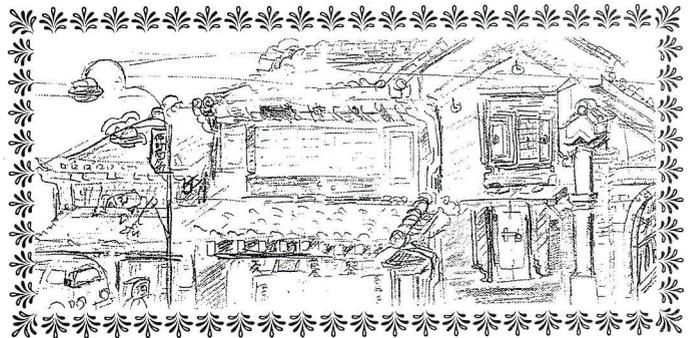
13日 無形文化財撮影(鼈甲螺鈿蒔絵)

文化財保護推進員会

19日 東京都生活文化局記録撮影協力

21日 文化財保護審議会(全体会)

川越市蔵造りの商店



岩佐敏子さん(石神井台五丁目在住)

「瓦からのメッセージ」受講の方が、街の中をスケッチされていました。

七

福神を特集しようと考えました。が……区内で公開されているものを見ても、全て揃っていません。練馬は、かつて水系の豊かな所で、弁財天は「水の神」として、多数祀られています。一方で、エビス様と、福祿寿神は、見つけられません。ご存知の方、お知らせ下さい。(担当)